

Injury Alert (傷害速報)類似事例

電気ケトルによる顔面・胸部・上肢熱傷 (No.28 電気ケトルによる顔面・胸部・上肢熱傷の類似事例 7)

事例	基本情報	年齢：0 歳 7 か月 性別：男児 体重：8kg 身長：90cm
	家族構成	父、母、本児
	発達・既往歴	運動発達に問題なし、つかまり立ち可能
臨床診断名		顔面Ⅱ度熱傷、前胸部・左上腕Ⅱ～Ⅲ度熱傷（計 15%）
医 療 費		入院 2,300,000 円
原因対象	対象名称	電気ケトル（図 1） 総容量：600mL 本体質量：約 900g 沸騰時間の目安：200mL 約 1 分半／600mL（満水時）約 3 分 転倒時の湯漏れ防止機能は搭載されていない。
	入手経路 使用状況	インターネット通販で新品を購入し、毎日朝に使用していた。 普段から、高さ 50cm 程度の棚上に置いていた。 （電源コードの配線状況や棚の奥行きなどに関する情報は不明）
発生状況	発生場所	自宅
	周囲の人 周囲の環境	母は、電気ケトルに水を入れて湯を沸かし始めてから、その場を離れていた。父は、別室で仕事の準備中であった。
	発生年月日	2021 年 12 月 X 日（火） 午前 7 時 00 分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	受傷直前、母が水 300mL を電気ケトルに入れ、湯を沸かしながらその場を離れた。上記時刻に、物音がして父が駆けつけたところ、電気ケトルが倒れており、本児が熱湯を浴びてしまっていた。両親とも受傷前後の様子を目撃しておらず、本児がどのようにして電気ケトルに到達し、ケトルが倒れたのか、詳しい状況は不明である。 父が本児を風呂場へ連れて行って冷水を浴びせ、その間に母が救急要請し、医療機関に搬送された。
医療機関受診時 以降の治療経過 転帰		初診時の評価では、熱傷範囲は顔面・前胸部・左上腕に及んでいた。体表面積の 15%を占める重症熱傷で、特に左上腕は水疱底が白色を呈しており、Ⅱ～Ⅲ度熱傷であった（図 2）。連日、鎮静下処置（洗浄、軟膏塗布、被覆）を継続し、X+7 日に左上腕熱傷部位のデブリドマン手術を実施した。さらに、X+13 日に同部位の植皮術を実施した。X+30 日に退院し、以降外来通院を継続した。

キーワード	電気ケトル、熱傷
-------	----------

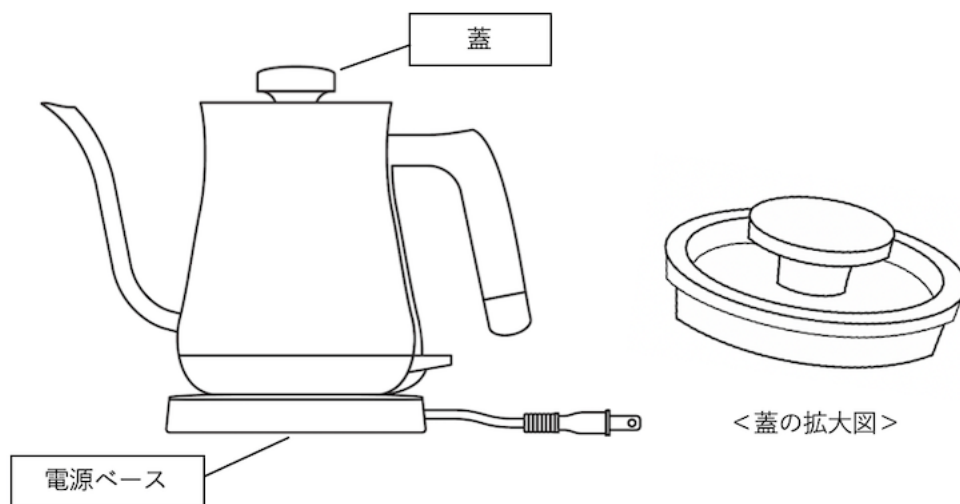


図 1. 原因となった電気ケトル（イメージ図）

ケトル本体を専用の電源ベース上に設置する。電源コードは電源ベース底部に収納でき、設置時に必要な長さを引き出して使用する。

一般的なやかんの如く、蓋は単純に本体上部に被せる仕様。ロックや湯漏れ防止機能は搭載されていない。



図 2. 左上腕の熱傷部位（X+1 日）

水疱底の真皮がところどころ白色を呈している（破線内）。